



佳作（株式会社伊予鉄高島屋賞）

コロナの夜明け

清家 全吉

紙 パネル

水彩絵具 クレヨン

ペン 鉛筆 色鉛筆

マジック クレパス

作品について

明けない夜はない、という
思いをこめ描きました。

講評

漆黒の大地。それに立つ林。大きく広がった空と覆い尽くす雲が描かれている。作者はそれぞれのモチーフに意味を持たせ、そして適確に表現している。コロナ禍で今までと違う、制約を余儀なくされて生活をしている作者は黒く塗られた大地と、遠く見える山の稜線は今の心境なのか、描かれている林は、自分もしくは仲間達なのか。覆い尽くす雲はその林を飲み込んでしまいそうである。作者の内側に抱える不安や孤独という感情が、あたかも風景と共鳴しているかのような作品である。稜線の奥から登ってくる朝の光が印象的で、明日への希望の光として描いているのかもしれない。

（渡部 利彦）